

平成 22 年度 財団法人いびがわ事業報告書

(自 平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

I 法人の概要

1. 設立年月日 平成 8 年 4 月 1 日
2. 寄附行為における目的
この法人は、揖斐川町の地域づくりの組織として地域と連携を図りつつ、揖斐川町が整備した町営施設及び観光拠点として整備した町営施設を管理運営するとともに、地域の活性化に関する諸事業を推進することにより、地域住民の生活、文化及び地域経済の発展向上並びに観光事業の振興を図り、活力ある明るい町づくりに寄与すること、並びに揖斐川水源地域ビジョンに基づき、企画立案、保全活動、環境教育、拠点施設の管理、調査研究などの活動を展開し、水源地域の豊かな自然環境の保全と活性化に寄与することを目的とする。
3. 寄附行為における事業内容
 - (1) 揖斐川町から委託を受けた町営施設、観光施設の管理及び運営に関する事業
 - (2) 地域活性化に資するイベントの実施、観光宣伝及び観光客誘致のためのイベントの実施
 - (3) 特産品等の開発及び販売に関する事業
 - (4) 観光に関する情報収集・提供、及び刊行物等の発行に関する事業
 - (5) 地域の居住環境整備に関する事業
 - (6) 揖斐川水源地域の自然環境の保護及び整備に関する事業
 - (7) その他前条の目的を達成する為に必要な事業
4. 主務官庁に関する事項 岐阜県総合企画部市町村課
5. 事務所等の状況 岐阜県揖斐郡揖斐川町東横山 264 番地 3
6. 役員等に関する事項

役 職	氏 名	常勤・非常勤
理 事 長	小森 勝義	常 勤
副理事長	寺井 達夫	非常勤
理 事	新井 弘文	非常勤
理 事	大谷 正秀	非常勤
理 事	中川 千吉	非常勤
理 事	坂下 紀夫	非常勤
理 事	竹中 章	非常勤
理 事	中島 兼房	非常勤
理 事	矢野 一郎	非常勤
理 事	前川 貞文	非常勤
理 事	中澤 登	非常勤
理 事	中野 信夫	非常勤
監 事	杉本 一義	非常勤
監 事	中井 治美	非常勤
評 議 員	清水 政則	非常勤
評 議 員	杉島 初代	非常勤
評 議 員	宮川 優	非常勤
評 議 員	戸澤 師康	非常勤
評 議 員	高橋 毅	非常勤
評 議 員	山口 好文	非常勤
評 議 員	中島 郁二	非常勤
評 議 員	五十川 保彦	非常勤
評 議 員	竹中 勝	非常勤
評 議 員	新井 國男	非常勤

7. 職員に関する事項

職 名	職 員 数		合 計
	男 子	女 子	
職 員	12 名	6 名	18 名
契 約 職 員	3 名	1 名	4 名
パート・アルバイト	15 名	45 名	60 名
合 計	30 名	52 名	82 名

Ⅱ 事業の内容

(1) 揖斐川町から委託を受けた町営施設、観光施設の管理及び運営に関する事業

① 揖斐川町藤橋新山村振興等農林漁業特別対策施設

1. 揖斐川町藤橋農林水産物処理加工施設（特産品加工施設管理運営）

蕎麦製造については、品質の均一化とロスを削減した事により効率の良い製造方法を確立することができ、藤橋庵へ蕎麦に換算し 26,600 余食を提供した。

手焼きせんべいについては 2,390 袋を販売した。消費低迷により売上減少となり商品のリニューアルが今後の課題となる。

今年度より発売が始まったいび茶のど飴は、各道の駅の販売で 1,381 個売上の事が出来た。

加工所利用については、地元唐辛子組合の乾燥器使用、その他製粉機の使用で 12 日間の利用があった。

収入	本年度	9,470	千円	前年対比	83.1%
	前年度	11,383	千円		

② 揖斐川町藤橋農山漁村活性化定住圏創造施設

1. 地域特産物販売施設（道の駅 星のふる里ふじはし 管理運営）

農産物コーナーを新設し農産物販売に力を入れた結果、契約農家数 117 件、売上 18,633 千円と前年対比 115%となった。しかし、農家によって品質等にバラつきが見られ、生産者意識の均一化が今後の課題である。

町内の商品導入を進めているが、種類や数量に限りがあり、今後は町内商品はもとより西濃圏域まで広めた商品開拓に努め、利用者に喜ばれる店づくりを推し進める。

イベントについては、朝市 2 回及び体験教室、揖斐地区グルメグランプリ等を開催し集客に努めた。

収入	本年度	96,065	千円	前年対比	84.6%
	前年度	113,451	千円		

人数	本年度	90,249	人	前年対比	88.0%
	前年度	102,459	人		

2. 藤橋庵管理運営

新メニューと季節限定メニューを考案し目新しさを取り入れた。環境に配慮し割り箸から樹脂製の箸に切り替えていたが、お客様の意見もあり使い易さを考慮して割り箸に戻すことにした。客席についても少人数にも対応できるレイアウトに変更した。また10月からは土日祝日の営業時間を午後8時まで延長し、利用者の利便性を図るとともに、更なる集客に努めた。

今年度も藤橋地区文化祭出店と年越しそばの販売を実施し、地域と連携した活動を行い住民との交流を深めた。

収入	本年度	23,322	千円	前年対比	86.3%
	前年度	27,014	千円		

人数	本年度	26,620	人	前年対比	85.1%
	前年度	31,276	人		

3. 特用林産物生産施設 集出荷加工施設（椎茸施設管理運営）

年7回合計11,760本のホダ木の搬入を行った。生産量も順調に推移し運営している3道の駅へ安定的に出荷する事が出来た。国内産（藤橋産）としての安全性と安心感及び品質の良さから固定客を掴んでおり、今後も安定的に供給できる生産体制を構築する事が重要となる。

収入	本年度	6,460	千円	前年対比	113.5%
	前年度	5,688	千円		

4. 配食サービス運営

高齢者の福祉の増進を目的に、高齢者世帯又は独居老人に対して、揖斐川町地域包括支援センター及びシルバー人材センターと連携を図り事業を展開した。栄養バランスや内容を吟味し利用者の満足度を高めるよう努力した。

町の人口も高齢化が進んでおり、今後もこのサービスを受ける高齢者が増える傾向が予想される。

収入	本年度	8,328	千円	前年対比	92.9%
	前年度	8,964	千円		

食数	本年度	21,694	食	前年対比	96.5%
	前年度	22,465	食		

5. 緑地公園・ハーブガーデン（道の駅公園管理）

地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備の観点から、花苗の植え付けや花木の手入れ及び除草を中心に作業を行った。花壇には四季折々の花を植え付け、花と緑が楽しめる来場者の憩いの場として日々整備に努めた。

6. 道の駅駐車場・歩道管理・情報交流館管理・公衆トイレ管理

道の駅駐車場・歩道管理については、安全を最優先に取り組み清掃や落下物等の撤去、冬期間においては除雪や融雪剤の散布などの対応を行った。

情報交流館については、最新の道路情報を掲示し迅速かつ正確に情報を伝えることに努めた。また町内の観光案内や近隣町村のポスター等の展示も併せて行い、利用者に観光情報を提供した。

公衆トイレは、公衆衛生の向上を目的に毎日定期的に清掃を行い、利用者に清潔で安心感を与えるように努めた。

③ 揖斐川町教育交流施設

1. レストラン星のふる里管理運営

季節毎に期間限定メニューの展開を図った。地元の食材を積極的に活用し地産地消に努めた。また、地域住民の方々に対しては法要等の食事の提供や地域イベント用のお弁当製造等地域に密着した活動を行った。6月からは営業開始時間を早め利用客の利便性を図った。

エントランスホールについては、清掃・美化に心がけ来場者に憩いの場を提供した。団体や個人の作品発表の場として多くの方に利用を頂いた。

収入	本年度	27,258	千円	前年対比	89.5%
	前年度	30,442	千円		

人数	本年度	31,397	人	前年対比	91.6%
	前年度	34,252	人		

④ 揖斐川町藤橋産業振興施設

1. 高齢者木工加工活動施設（木工所管理運営）

木工所の利用については、当財団施設の修繕や展示台・販売台等の加工を中心に利用した。また木材等の貯蔵など施設を有効に利用する事が出来た。

2. 特用林産物展示実習施設管理

建物・付属設備・備品等の清掃点検を実施し、良好な環境を保つよう努めた。

⑤ 揖斐川町貝月森林総合利用施設

1. 貝月森林総合利用施設管理運営

花事業も4年目を迎えるものの、一面がお花畑の様な情景を作る事が出来なかった。試行錯誤を繰り返し種苗の種類や品種を選定しながら作付けを行った。地道な作業の繰り返しが数年後に花開くよう努力を続けていく。

サマーシーズンについて、コテージ・バンガロー・キャンプを中心に集客を図った。ホームページ上に情報を掲載することにより、利用者の問い合わせや予約が増加した。また、ミニイベント開催や地域イベントへの協賛、町内の幼稚園・小学校に協力を依頼したキャンドルフェスタ等を開催した。

ウインターシーズンについて、スキー場営業日数が、前年度67日に対し今年度は78日となった。今年度は中学生以下のリフト料金無料化を実施した。その結果、中学生以下の利用客が増加したことにより、より一層安全対策への配慮が必要となったが、事故なくスキー場営業を終える事が出来た。また、栃の実荘のレストランを営業し利用者の利便性の向上に努めた。

収入	本年度	59,750	千円	前年対比	108.0%
	前年度	55,308	千円		

人数	本年度	31,215	人	前年対比	100.6%
	前年度	31,009	人		

⑥ 揖斐川町月夜谷ふれあいの里施設

1. 月夜谷ふれあいの里施設管理運営

毎月の体験ミニイベントを9回開催し161名の参加があった。滞在型宿泊施設としてコテージの稼働率向上に繋がった。農業体験や各種体験等自然にふれあう機会を通して、より豊かな人間性を育むことに寄与している。各種イベントにも積極的に参加し自社製造商品の販売を展開した。一方、施設の老朽化が目立ち始めたため、コテージの屋根・壁面の塗装を職員で実施した。利用者の満足度も向上し、リピーターに繋がった。

収入	本年度	15,372	千円	前年対比	106.2%
	前年度	14,468	千円		

人数	本年度	10,787	人	前年対比	94.2%
	前年度	11,450	人		

⑦ 揖斐川町久瀬温泉施設

1. 久瀬温泉施設管理運営

営業開始 10 周年を迎え 10 月には記念イベントの開催、紅葉イベント、温泉スタンプラリー、毎月 10 日と 26 日をポイント 2 倍デーにするなど集客に向けた取り組みを行った。イベントについては、地域住民の協力もいただき、新鮮野菜の販売や手作り品でおもてなしを行った。また、源泉ポンプの入れ替え、浴槽内の手入れ、防腐剤塗装など清潔な環境を整えた。

収入	本年度	12,090	千円	前年対比	92.6%
	前年度	13,055	千円		
人数	本年度	28,636	人	前年対比	90.4%
	前年度	31,643	人		

⑧ 揖斐川町坂内産地形成促進施設

1. 坂内産地形成促進施設（道の駅夜叉ヶ池の里さかうち管理運営）

特産のダチョウ肉を使用した料理を中心に、新メニューを開発する事で話題となり 2 社のテレビ局が取材に訪れた。7 回の新鮮朝市、夜叉ヶ池道中祭への参加、秋の感謝祭等を開催し集客を図った。

公衆トイレについては、毎日定期的に清掃を行い利用者に清潔な場所を提供した。

収入	本年度	39,653	千円	前年対比	88.8%
	前年度	44,617	千円		
人数	本年度	45,453	人	前年対比	89.1%
	前年度	51,009	人		

⑨ 揖斐川町谷汲特産品加工販売施設

1. 谷汲特産品加工展示販売施設（道の駅夢さんさん谷汲管理運営）

新たな試みとしてオリジナル商品を開発し販売を行った。そば処では新メニューを導入し、幅広い年齢層からの支持を得る事によって定番化を図る事ができた。軽食コーナーではロス率の削減等に取り組む、効率の良い運営に努めた。

収入	本年度	22,120	千円	前年対比	94.2%
	前年度	23,480	千円		

人数	本年度	27,560 人	前年対比	89.5%
	前年度	30,777 人		

(2) 地域活性化に資するイベントの実施、観光宣伝及び観光客誘致のためのイベントの実施

藤橋新鮮朝市開催	5/2	10/9.10		
坂内新鮮朝市開催	5/2	6/6	7/4	8/1 9/5 10/3 11/7
揖斐高原花桃フェスタ開催（協賛）		4/24.25		
久瀬温泉 10 周年記念祭開催		10/11		
久瀬温泉秋の紅葉イベント開催		11/21		
坂内道の駅 秋の感謝祭イベント開催		11/21		
IBI-1 ガルゲラプリア共同開催（場所：藤橋道の駅）	11/21		参加者	約 1,500 名
揖斐高原スキー感謝祭	3/6			
横山ダムとイビデン東横山発電所見学会	3/30		参加者	6 名

◎ 県外出店（観光 PR、特産品 PR）

ぎふ西濃さわや観光キャンペーン参加（大阪千里中央）	9/25.26
---------------------------	---------

◎ 県内出店（観光 PR、特産品 PR）

揖斐高原花桃フェスタ出店	4/25	弁当販売
坂内道中祭	7/24	軽食販売
藤橋地区盆踊り大会	8/14	オリジナルうちわプレゼント
藤橋地区文化祭	10/24	そば他販売
いびがわマラソン	11/14	弁当・特産品販売
徳山ダムサイト出店	4月～11月	計 27 回 弁当販売

各施設実施イベント

○ 藤橋道の駅

・盆栽体験教室	10/31	参加者	12 名
・こんにゃく作り体験教室	11/6	参加者	28 名
・陶芸体験教室	11/7	参加者	28 名

○ 貝月リゾート施設

・揖斐高原 貝月グレンデ登山	5/9	参加者	23 名
・揖斐高原マス釣り大会	7/19	参加者	63 名
・ちょこっと縁日気分	8/13.14	参加者	24 名

・あまご釣り大会	9/20	参加者	59名
・秋の高原そば試食会	10/24	参加者	56名
・キャンドルフェスタ	11/27	参加者	526名

○ 月夜谷ふれあいの里（月毎イベント）

・草餅と簡単寄せ植え	4月	参加者	19名
・チビッコ写生大会	5月	参加者	28名
・新じゃがいも掘りとアイデアコロケ	6月	参加者	25名
・アイスクリーム・フォトスタンドづくり	7月	参加者	25名
・魚つかみとマイ箸づくり	8月	参加者	10名
・魚釣り大会	9月	参加者	11名
・さつまいも掘りと芋料理つくし	10月	参加者	27名
・こんにゃく作りとあったかおでん	11月	参加者	9名
・餅つき大会とちょっと早いサンタさん	12月	参加者	7名

○ 久瀬温泉

・菖蒲湯実施	5/4.5.6
・七夕イベント	7/7
・久瀬温泉風呂の日	7月より毎月26日
・白龍デー	9月より毎月10日
・ゆず湯実施	12/23～25

○ 谷汲道の駅

・陶芸教室開催	7/30	参加者	15名
---------	------	-----	-----

(3) 特産品等の開発及び販売に関する事業

いび茶飴のど飴	4月より販売開始
いび茶ソフトパフェ（レストランにて）	8月より販売開始
いび茶使用「まっちゃん豆」	3月より販売開始

(4) 観光に関する情報収集・提供、及び刊行物の発行に関する事業

総合観光パンフレット及び揖斐高原貝月リゾート夏用パンフレットを新たなデザインで作成した。各施設や関係機関に配布し観光客の利便性を高めた。

財団ニュースは、5月、7月、11月の年3回発行した。事業及び会計決算報告やイベント案内、事業の実施状況等わかり易い紙面に仕上げた。

(5) 地域の居住環境に関する事業

1. 藤橋マンション管理運営

家賃の見直し後1年を経過するが、大きな効果としては表れなかった。ホームページ上の入居募集掲載のみならず、管理施設及び各方面にポスター掲示を行ったが、立地条件等も障害となり新たな入居契約は2件に留まった。

揖斐川町で移住定住対策事業の取り組みが始まり、事業に協力した結果4組11名の部屋利用があったが、マンションでの定住までには至らなかった。

(6) 揖斐川水源地域の自然環境の保護及び整備に関する事業

生命の水と森の活動センター事業

I 水源地の自然環境保全事業

①水環境の保全事業

■日本一の徳山湖の出現、加えて今後国道303号線の片側完全1車線化に伴い、近畿・北陸地域との交通網の発達により観光客等入り込み者が増加している。これに伴い、ダム湖・国道沿線、周辺森林、望郷の広場等周辺施設などへの廃棄物の不法投棄や油等流出事故による水質悪化、森林の無断伐採、樹木や貴重な植物の盗掘が懸念されている。

そこで、流域及び水源地としての水環境を保全するため、水質対策、下流河川の清流の確保や河川環境の改善を図るため、国、県、揖斐川町、水資源機構徳山ダム管理所、漁業協同組合、NPO団体、流域住民、ボランティアなどと協働して次の取り組みを行った。

■取り組み内容

◎徳山ダム上流域保全利用協議会（平成20年7月設立）

内容：関係機関と連携を図り、情報を共有し、効率的かつ迅速な水源地の保全・徳山湖の適正利用を図るため事務局会議を行い検討を実施した。

開催回数等：2回（協議会・幹事会各1回 ●1/14事務局会議）

◎水源地域清掃活動

内容：NPOなど団体や流域住民と協働して、揖斐川上流域の清掃活動を実施した。

実施回数等：清掃活動5回（6月～11月）

・揖斐川クリーン作戦

（●6/12 30名参加（学習館上流河川 約3km）

・揖斐川上流水源地域クリーン活動

（●9/11 70名参加（西平ダム湛水池上流～イビデン取水堤まで約10km）

・夜叉ヶ池登山道クリーン活動

- (●10/3 56名参加 池ノ又林道イビデン取水堤～夜叉ヶ池まで約12km)
- ・冠山登山道クリーン活動 (●11/23 4名参加)
- ・門入クリーン活動 (●8/1～2, 11/15～16 12名参加 (ホハレ峠～門入地域まで約6km))

◎水源地域の環境パトロール活動

内容：揖斐川町と協働して、徳山ダム上流域の環境パトロール活動を実施した。

実施回数等：原則毎週2回(4月～12月)

(●4/2～12/14 72回 ゴミ回収量104kg)

②森林の保全事業

■森林のもつ水源のかん養、土砂流出防備、水質保全などの公益機能の維持・増進並びに野生動物の保護を図るため、水源地域の森林の保全、森林の管理、森林の整備等を県、揖斐川町、水資源機構、徳山ダム施設管理、NPO等と協働して次の取り組みを行った。

■取組み内容

◎広葉樹の植樹、間伐

内容：徳山ダム上流の荒廃森林、工事跡地などの裸地、人工造林地の不成績林分の広葉樹郷土産のクリ、トチノキ、ナラ、ブナなどの野生動物の食餌木「実のなる木」の植栽、保育活動を実施した。

実施回数等 ア 木の実の採取・・・秋に随時実施した。

イ 苗木の養成・・・通年「●専用苗畑等で養成中 約2,000本」

ウ 植樹・保育(下刈など)をNPO揖斐自然環境レンジャーなどと協働して実施。 名称：徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦

(●7/10 下刈・獣害防止ネット設置 93名参加 ●9/7 下刈7名参加 ●9/11 下刈 19名参加 ●11/3 植樹 85名参加)

◎水源地域森林調査

内容：植栽場所等荒廃森林の現況調査を実施した。

実施回数等：2回(「●8/1～2, 11/15～16」)

◎水源地域に「実のなる木」を植えよう活動

内容：NPO団体などと連携して、揖斐川水源地域全体に、トチノキ、ナラ、クリ、ブナなど野生動物の餌となる「実のなる木を植えよう活動」を行い、生物多様性豊かな森林づくりに努めるため、実のなる木の苗木提供、各種イベントでの普及啓発を実施した。

実施回数等：6回(「実のなる苗木展示・販売、PR活動 ●4/29～5/3 ●6/12 ●11/12 ●11/16～19 ●11/24～26 ●11/29～11/30」)

◎苗木のホームステイ・植樹活動

内容：揖斐川水源地域の「木の実」を播種して発芽した「実のなる木」の小苗を、下流域の小中学生に預けて育成してもらい、大きく育った苗木を水源地域に植栽をしてもらった。

実施回数等：春、秋

- ・苗木のホームステイ 3校（苗木の定植活動「●4/22 北方小 19名参加、●4/26 北和中 51名参加 ●5/10 久瀬小 39名参加」）
- ・植樹活動（●北和中 10/6 ●北方小 10/25 ●久瀬小 11/29）

◎企業とNPO等が協働した森林づくりの支援

内容：イビデン株式会社、揖斐川町、岐阜県、NPO揖斐自然環境レンジャー、地元住民などが協働して行う、地球環境保全のための「イビデンの森」づくり活動を支援した。

実施回数等：5回（●4/10 植樹 参加167名、●4/23 枝打ちなど 参加30名）
（●6/5 イビデン森づくりPR活動 ●9/4 下刈 60名参加）
（●11/13 森林学習 39名参加）

③自然生態系の保全事業

■水源地の自然生態系を保全するため、ブラックバス等特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律（以下「外来生物法」という。）で定める規制種の移入・防除等を図るため次の取り組みを実施した。

■取り組み内容

◎自然環境保全研修会の開催

内容：外来生物法で定める、特定外来魚の移入防止や自然環境の保全を流域の関係団体や住民「みんな」で防止する意識の醸成とその知識の向上を図るための研修会を開催した。

実施回数等：1回（流域住民、ダム管理関係者など●3/2 47名参加）

◎観光客などに対するPR活動

内容：特定外来生物移入防止のため、リーフレット・HPなどを通じたPR活動を行った。

実施回数等：6回（●6/6、7/28、29、11/12、11/16～19、11/24～26、11/29～11/30 PR活動）

II 自然環境保全教育・研修事業

①体験学習事業

■徳山ダム周辺の優れた自然環境を活用して、小中学校児童生徒などを対象とした「命の水・自然生態系・野生生物・森林など」体験学習を通じて、水源地の重要性、自

然生態系の大切さなどを広く普及するため次の取り組みを行った。

■取り組み内容

◎活動センター主催の体験活動

内容：活動センターが主催した自然体験学習を実施した。

実施回数：20回

内訳：・森林作業体験 4回

(NPOと共催 ● 7/10 下刈 93名参加、9/9 下刈 7名参加、
9/11 下刈 19名参加 ●11/3 植樹 85名参加)

・炭焼き体験 1回 (●12/11 9名参加)

・森とのふれあい体験 巨樹巡り 1回 (揖斐川水源地見学ツアーと併
催「●8/8 31名参加」)

・水とのふれあい体験 川遊び 1回 (●7/31 19名参加)

・雪とのふれあい 雪あそび 3回 (●1/16 12名参加, 1/23 13名参加
歩くスキー、イグルー作り、スノーシュー体験)

・ものづくり体験 木工クラフト 3回 (●4/25 52名参加 10/9.10 136
名参加 12/4 17名参加)

愛スプーン 3回 (●3/6, 3/13. 3/20 20名参加)

・ファミリーキャンプ 1回 (●8/14~15 25名参加)

・環境学習 ダム機能学習教室 3回 (揖斐川水源地域見学ツアーと併催
●8/8 26名参加 ●8/24 32名参加 ●11/10 30名参加)

◎小中学校等体験学習支援

内容：ふじはし星の家宿泊者や申込み団体等の自然体験学習を支援した。

実施回数等：随時 (●4/10~3/21 町内外の小中学校、子供会など 166 団体
5,068名 体験活動の支援)

◎登山道標識整備 (花房山・杉原山)

内容：小中学校児童生徒を杉原山を経て、徳山ダムが一望できる花房山 (標高
1,190m) へ至る登山活動を実施するため、登山道改修・標識などを整備
した。

実施回数等：10回 (●4/21, 5/4~5/6, 5/15, 6/2, 6/16, 6/17, 9/10, 9/12, 9/29, 10/26)

◎体験活動機械器具・施設整備

内容：体験学習に必要な野営テント、ライフジャケット、木工クラフト工具、歩
くスキー (クロスカントリースキ)、野鳥観察など機械器具を順次整備し
た。

実施回数等：22年度活動に必要なものを順次整備した。

◎体験学習のためのテキスト等整備

内容：体験学習に必要な図書・テキスト・DVDを整備した。

実施回数等：随時

◎水と森の学習館PR活動

内容：水と森の学習館（徳山ダム資料館）を広く下流域住民に理解を得るため、各種イベントなどに参加して、PR活動を実際した。

実施回数等：11回 各種イベントなど参加して、PR活動を実施した。

「● 4/25, 4/29～5/5, 6/5, 6/6, 6/12, 7/28, 7/29 10/8～10, 11/13, 11/24～26, 11/29～11/30」

◎水源地の水の一滴塾活動支援

内容：水源地の水の一滴塾（H19.3 設立塾頭菅原文太氏）が揖斐川水源地域などで行う環境学習活動等の支援した。

実施回数等：1回（● 水源地防人セミナー 11/20～21 88名参加）

◎徳山ダム見学会

内容：団体が「水と森の学習館」、「徳山ダム」でのダム機能・環境保全への取り組み、徳山ダム学習等を行う場合に支援した。

実施回数等：随時（事前申込者対象 ● 4/14～3/21）

●徳山ダム現地見学案内者数(3/31現在)					
4月	8団体	306名	(男：169名	女：137名)	
5月	14団体	489名	(男：168名	女：321名)	
6月	22団体	781名	(男：429名	女：352名)	
7月	30団体	815名	(男：360名	女：455名)	
8月	24団体	777名	(男：398名	女：379名)	
9月	16団体	501名	(男：262名	女：239名)	
10月	34団体	973名	(男：539名	女：434名)	
11月	42団体	1,585名	(男：821名	女：764名)	
12月	2団体	42名	(男：35名	女：7名)	
1月	2団体	36名	(男：28名	女：8名)	
2月	0団体	0名	(男：0名	女：0名)	
3月	1団体	6名	(男：3名	女：3名)	
累計	195団体	6,311名	(男：3,212名	女：3,099名)	

◎エコツアー現地調査

内容：豊かな自然環境と地域資源の活用による「学びの場」の環境づくりのため、源流の溪流や天然林をガイド付きで案内する「いび川徳山源流の森自然観察ツアー」の実現に向けて、調査・検討を実施した。

実施回数等：随時（24年に試行を目標に調査・検討の実施）

（●調査8/1～2 6名参加 11/15～16 6名参加、●8/7～8 いび川
徳山源流の森観察ツアー仮試行「1泊2日」 24名参加）

②研修促進事業

■広く三県一市の経済界を含めた諸団体との連携のもと、豊かな自然景観を活用して、
環境・水・森を軸に据えた研修の場としての活用を促進した。

■取組み内容

◎企業等の活用促進調査

・企業等訪問調査

内容：徳山ダムを核とした豊かな自然環境を活用して、環境・水・森を軸とした
企業研修を促進するための調査・検討を実施する。

実施回数等：随時（研修の場としての活用を推進するためカリキュラム・実態調
査・PR（●3/17 大垣市内会社）

③健康と安らぎ事業

■水辺環境や森林空間での遊び、森林浴、ウォーキングなどを通じての、健康と安ら
ぎの場としての活用を推進した。

■取組み内容

◎セラピー、ウォーキングロード整備調査

内容：揖斐川水源地に、ウォーキングコース設定のための調査検討を実施した。

実施回数等：随時（●8/1～2 6名参加 8/7～8 4名参加、11/15～16 6名参加）

III 水源地を活用した調査・研究協力事業

■広大なダム湖、水源地の森林などをフィールドとして活用した大学、企業、県など
研究機関が行う調査・研究活動の展開を支援した。（ウォーキングコース調査）

■取組み内容

◎研究機関の調査・研究活動支援

内容：大学、企業、県などの研究所の研究・試験地の提供のための、意向調査・
PR活動を実施した。

実施回数等：随時（大学など訪問情報提供 ●12/17 県河川環境研究所、12/21
県森林研究所、県森林文化アカデミー）

IV 治水・利水及び水源地の環境保全の重要性普及啓発事業

①活動を通じた上下流交流、教育交流

■揖斐川上流、下流のNPOや一般住民及び小中学校児童生徒が植樹・間伐、総合学
習などの体験活動を通じて、よりよい水源地の環境の創造を推進する。また、水源

地のPRや環境活動・体験活動を増進するための人材を育成した。

■取組み内容

◎徳山ダム水源見学ツアー

内容：下流域の小学生親子の徳山ダム水源地域の見学や間伐など水源林保全体験会を下流関係市やダム管理者等と共催した。

実施回数等：3回（●8/8 26名参加、8/24 32名参加、11/10 30名参加）

◎水と森の感謝祭

内容：揖斐川町、ダム管理者などと連携して、「水と森の感謝祭」を開催した。

実施回数等：1回（●7/28, 29 50名参加）

◎水源地域のPR

内容：揖斐川町、ダム管理者などと連携して、各種イベントに参加するなど揖斐川水源地域の取り組み等のPR活動を行った。

実施回数等：随時 ●4/25, 4/29～5/5, 6/5, 6/12 7/28, 7/29 ●6/6 名古屋水フェスタ
●10/8～10 いび森林資源活用センターオープニングイベント
●秋の観光放流 10/29～31
●11/24～26, 11/29～11/30 ダム堤体付近「物産販売所」
●11/13 名古屋エコ市参加）

◎水源地サポーターなど人材育成

内容：水源地域の活動を「みんなで支え・育てる」ためのボランティア（水源地域サポーター）を募集・育成を行った。

実施回数等：随時（募集、養成研修 ●9/23 飯こう炊さん研修会 10名参加
水源地域サポーター31名登録済み ●11/20～21 水源地防人セミナー）

V 自然を活用した水源地域の活性化事業

■揖斐川町、商工会、観光協会、町内の体験交流施設等と連携して、徳山ダムと既存の観光拠点を結ぶネットワークの形成、魅力ある水源地域の観光ツアーを旅行会社などを対象にPR活動を行った。

■取組み内容

◎拠点施設のネットワークづくり

内容：町内の観光・体験交流施設の情報の一元化・役割分担を進め、緩やかなネットワークづくりを推進するため、「いび川水縁フォーラム（情報交換サロン）」を組織し、情報交換、勉強会を行った。

実施回数等：随時（23年度に活動の試行を目標に組織・推進体制などの検討を実施
[いび川水縁フォーラム設立 10/6] 情報サロン開催（●10/6, 11/4
12/1, 2/2, 3/2）

◎観光ツアー等の調査、PR活動

内容：町内の観光施設と徳山ダム・揖斐川水源地を活用した体験活動と連携した「観光ツアー」を推進するための調査・研究、PR活動を行った。

実施回数等：随時（揖斐川町・観光協会などと連携）

- ・国土交通省 2010 水の里旅コンテスト 特別賞受賞 ●5/30 現在、全国旅行業協会・(株)全旅・日本観光協会の協力を得てプロモーション活動中)
- ・●11/6～7 水の里旅コンテスト特別賞モニターツアー 4名参加
- ・田舎くらし体験 in いびがわ (●10/23～24、11/27～28、12/12～13)
- ・●12/1、12/17 湖面活用現地調査 (岐阜市、可児市)
- ・● 2/3 クロモジ菓子楊枝づくり現地調査 (木更津市)

VI 情報収集・発信事業

■徳山ダムや水源地域の治水・利水上の役割、必要性など及び森と水の大切さやおいしい水の源並びに活動センターの活動内容などの情報を発信して上下流交流活動の促進、PRを図った。

■取組み内容

◎ホームページ等による情報発信

内容：徳山ダムや水源地域の自然、活動センターの体験学習活動などをホームページや会報を通じて、情報発信を (<http://www.inochinomizutomori.or.jp>)
また、インターネットでの寄付仲介サイト“JustGiving Japan”に推薦登録を得て、当活動センターの情報発信と寄付金の提供得た。

実施回数等：常時（「アクセス数●4/1～3/31 8,186件
9/5 “JustGiving Japan”登録）

◎水源地遭難対策

内容：水源地への入り込み者が増大していることから、遭難対策について、関係機関との情報交換を行った。

実施回数等：随時（●1/14 ●3/2）

◎徳山ダムやダム関連施設の総合案内

内容：水と森の学習館／徳山ダム資料館の利用者に対して、徳山ダムの機能・ダム関連施設、町内観光などの総合案内を行った。

実施回数等：常時（●「4/1～3/31」）

●水と森の学習／徳山ダム資料館利用者数(3/31現在)			
4月	719名	(男：445名 女：274名)	
5月	1,177名	(男：611名 女：566名)	
6月	1,379名	(男：734名 女：645名)	
7月	1,459名	(男：695名 女：764名)	
8月	1,626名	(男：884名 女：742名)	
9月	931名	(男：538名 女：393名)	
10月	1,844名	(男：1,062名 女：782名)	
11月	2,879名	(男：1,461名 女：1,418名)	
12月	289名	(男：203名 女：86名)	
1月	233名	(男：182名 女：51名)	
2月	282名	(男：243名 女：39名)	
3月	322名	(男：269名 女：53名)	
累計	13,140名	(男：7,327名 女：5,813名)	

(●は実施日)

Ⅲ 役員会等に関する事項

第1回理事会 平成22年4月8日(木)

審議事項

- ・理事長及び副理事長の選任について

第2回理事会 平成22年5月31日(月)

審議事項

- ・平成21年度 一般会計収支補正予算書(第4号)専決処分の承認について
- ・平成21年度 藤橋マンション事業会計収支補正予算書(第2号)専決処分の承認について
- ・平成21年度 生命の水と森の活動センター事業会計収支補正予算書(第3号)専決処分の承認について
- ・平成21年度 事業報告書及び会計決算報告書の承認について

第3回理事会 平成22年8月12日(木)

審議事項

- ・基本財産への繰入れについて
- ・平成22年度 一般会計収支補正予算書(第1号)の承認について
- ・平成22年度 生命の水と森の活動センター事業会計収支補正予算書(第1号)の承認について

報告事項

- ・平成22年度 第1四半期事業及び会計監査報告

第4回理事会 平成22年12月24日(金)

審議事項

- ・平成22年度 一般会計収支補正予算書(第2号)の承認について
- ・財団法人いびがわ 理事長辞職について
- ・財団法人いびがわ 理事長の選任について

報告事項

- ・平成22年度 第2四半期事業及び会計監査報告

第5回理事会 平成23年3月1日(火)

審議事項

- ・財団法人いびがわ 諸規程の設置の承認について
- ・財団法人いびがわ 引当預金及び積立預金の設置及び管理規程の一部改正の承認に

ついて

- ・財団法人いびがわ 従業員就業規則 賃金規程の一部改正の承認について
- ・平成 22 年度 一般会計収支補正予算書(第 3 号)の承認について
- ・平成 22 年度 藤橋マンション事業会計収支補正予算書(第 1 号)の承認について
- ・平成 22 年度 生命の水と森の活動センター事業会計収支補正予算書(第 2 号)の承認について

報告事項

- ・平成 22 年度 第 3 四半期事業及び会計監査報告

第 6 回理事会 平成 23 年 3 月 28 日 (月)

審議事項

- ・財団法人いびがわ 理事辞任の承認について
- ・評議員選任について
- ・財団法人いびがわ 諸規程の一部改正の承認について
- ・平成 23 年度 事業計画書の承認について
- ・平成 23 年度 一般会計収支予算書の承認について
- ・平成 23 年度 藤橋マンション事業会計収支予算書の承認について
- ・平成 23 年度 生命の水と森の活動センター事業会計収支予算書の承認について

IV 法人の課題

ギリシャの財政破たん (EU 連合の財政危機)、アメリカ経済の低迷、そして金融不安、連鎖的な不安要因が広がりを見せる。更に中東情勢の混迷から原油価格の高騰、新興国の発展に伴う食料品の上昇が世界経済に広がる。唯一、中国、インドを含めた経済圏が好景気の中、日本経済は、世界経済の影響を受け円高、株価下落、デフレ圧力の上昇と景気が低迷しており、更に大震災と原発問題が日本経済に大きな影響を与えている。今後、景気回復には相当時間が掛かると予想され、国民は消費を抑制する傾向が続くであろう。

今年度の業績は、藤橋地区では前年対比 86.7%と大きく落ち込む事となった。坂内・谷汲地区についても前年対比 90.7%となった。久瀬地区については貝月施設と月夜谷施設が前年対比でそれぞれ 108.0%、106.2%と唯一売上を伸ばし、久瀬温泉は 92.6%と前年比率を落とした。全体では前年対比 91.9%であった。

このような状況では、支出の削減(経費の見直し)、利益率の向上を最優先に取り組む事が先決である。これからは、各個人の能力を最大限に発揮して事業に取り組み、改革・改善へと進めて行くことがたいへん重要となる。

観光拠点作りの柱として、地域を活かした「いび谷ブランド」を確立することで商品や

サービスに付加価値が生まれ、マーケットで競争優位に立つことが可能となる。強いでは「オンリー1」となり総合的に強い力となる。全ての事業に相通じるものと考えられる。それぞれが原点に立ち返り「おもてなしの心」を大切に、時代の流れを敏感に捉え、柔軟な対応と正確な判断及び迅速な決断を下す事が求められている。

最後に、公益法人制度改革については平成 23 年度の申請書提出を予定し、各種関係セミナーを受講し理解と習得に努めた。主務官庁の縣市町村課担当者とも打合せを行い、よりよい方向性を探っている。